

連珠大会開催ガイド

第0章 はじめに

皆さん、連珠（れんじゅ、RENJU）をご存知ですか？聞いたことがない？とおっしゃる方は、「五目並べ」はおそらくご存知でしょう。連珠は、「競技五目並べ」と言って良い、五目並べのルールを統一したボードゲームです。日本で100年以上前に発祥し、40年ほど前に世界に広まりました。2年に一度、世界選手権も開催され、日本人がこれまで4度世界一になっています。また、日本国内では毎年「名人戦」も開催されています。このようにロジカルなボードゲームとして世界中で楽しまれている一方、基本ルールが簡単なので、お祭りや授業など各種イベントによく使われます。本ガイドは町内会のお祭り、児童館のイベントなどで連珠大会開催を考えている方に「連珠イベント」の開催方法を説明するものです。

連珠には以下の特徴が有り、一日のイベントで楽しむのに適しているゲームです。

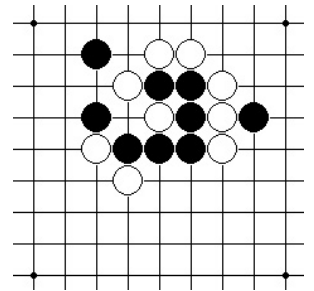
- ・ルールが簡単ですぐ始められる。
- ・比較的短手数で勝負が決まり、対局時間も短い。
- ・子どもから大人まで、世代を超えて一緒に楽しむことができる。

ぜひ、本ガイド及び添付資料を活用して連珠イベントを開催してみてください。

なお、本ガイドは以下のことを前提にしています。

- ・主催団体の予算がある程度有る。（とは言え、初期投資で1万円程度です）
- ・連珠イベント参加者から参加費を取らない。

→参加費を取る場合はそれなりに賞品・参加賞を充実させてください。



第1章 基本編 連珠大会開催の手順

本章は連珠大会を開催するために必要な3つのフェイズ（①企画する→②準備する→③実施する）の基本的な流れと手順を解説します。

1. 連珠大会を企画する

本項では連珠大会を企画し開催を決定するまでに必要な項目・手順を解説します。

連珠大会を企画するというと難しく思えますが、以下の事を決める事です。

- ①開催日時
- ②開催場所
- ③誰をターゲットにするか
- ④開催内容
- ⑤開催メンバー（体制）
- ⑥予算はいくらにするか

（1）開催日時、開催場所、ターゲットを決める

町内会のお祭り、児童館のイベントなどですと、既に①②は決まっています。また③はそのイベントに来られる方が中心となります。主催者にどのような人が来場されるか確認してみましょう。

（２）開催内容を決める

連珠大会をどのようなイベントにするかを決めます。ここでは例として

- ①連珠大会は20人参加（出入り自由。最大同時対局数：6局）。
- ②参加者は5人の人と先手後手1局ずつ対局。
- ③合計10局内打ち、7勝以上の人に賞品、参加者全員に参加賞を渡す。
とします。

（３）開催メンバーの体制を決める

主催者（責任者）1名と規模によりますが、スタッフ2～4名位必要です。まずは仲間に声をかけます。また主催者がイベント全体のスタッフを募集するときと一緒に募集してもらえることも有ります。

（４）開催費用を決める

連珠大会を開催するのに必要な費用は概ね以下のものです。

a.連珠盤：ビニールの連珠盤はインターネットで購入可能です。1枚600円+送料です。最大同時対局6局ですので、盤は6つ必要となります。

b.碁石：公民館などですと借りられる場合も有りますので確認しましょう。石を購入する場合、通常1セットに黒石181個、白石180個入っていますので、連珠盤3枚分なら1セット購入で十分です（1つの盤に黒白60個ずつ）。石は大きめのおもちゃ売り場またはインターネットで購入できます（1セット：1500円程度）。最大同時対局数が6局ですので、石は2セットあれば、各石60個ずつ用意できます。

なお、碁石を入れるケースは100円ショップで売っているケースを使うと便利です。（どんなものでも構いません）

c.賞品：無くても連珠大会は開催できますが、ちょっとした物でもあると喜ばれます。100円ショップやイベント用品販売店、ネットショップなどの物を活用するのが簡単です。

また意外と喜ばれるのは表彰状です。（参考：添付資料3）

d.印刷代：パンフレット、ルール説明資料などの印刷代が必要となります。

e.会場費：お祭りなどのイベントでは無料の場合が多いです。

概算で合計a：3,600円+送料、b：3,000円、c：2,000円、d:1,000円で10,000円程度となります。

碁石が借りられる場合や、連珠盤（紙を含む）が有る場合は3,000円程度で開催可能です。



2. 連珠大会を準備する

連珠大会の準備で必要となる5つの内容（①大会内容を決める②道具・ツールを準備する③スタッフの役割を決める④PR資料を作成し配る⑤景品を準備する）について例を使って解説します。

(1) 大会内容を決める

ここでは、企画時に決めた内容をベースに当日困らない程度に詳細を決めます。

①対局ルール

初めての人が参加するので、できるだけシンプルなルールが良いので

- ・連珠ルール（禁手有り）
- ・自由打ち（黒・白とも自由に打てます）
- ・120手打って勝負が付かない場合は引分けとします。

②運営ルール

当日の運営ルールを決めます。

- ・出入り自由。時間があるときに参加可
- ・勝ち点の多い人を表彰する
- ・原則参加者同士が5人と対局する。

（参加者が少ないときや、参加者が奇数で空いてしまう人がいるときはスタッフが入る事も可）

- ・1人の相手と黒番・白番2局ずつ対局する（合計5人と10局打ちます）。
- ・10勝：1等賞、9勝：2等賞、8勝・7勝：3等賞、その他参加賞を渡す。

③賞品

- ・1等賞（想定数：1人）：表彰状+景品
- ・2等賞（想定数：2人）：表彰状+景品
- ・3等賞（想定数：4人）：表彰状+景品
- ・参加賞（想定数：13人）：景品
- ・表彰状は賞の欄を空白としたものを10枚用意する。
- ・景品は30個用意する。



(2) 道具・ツールを準備する

企画で決めた最大同時対局数6局が対局できる数の道具を準備します。

①盤・石を6セット用意する。

- ・借用できる場合は当日の借用申請を行う。
- ・購入する場合はネットショップなどで購入する。
- ・盤（添付資料4）を印刷することもできる。
- ・B3サイズなので、A4で印刷すると4ページになります。

②連珠ルール（参加者配布用）を30枚用意する。（参考：添付資料1）

③連珠ルールと打ち方（スタッフ配布用）をスタッフ人数分用意し可能なら事前配布しておく。（参考：添付資料2）

④対局カード（自分の名前と対局相手5人分の欄（勝ち負けを記載できるもの）を30枚用意する。（参考：添付資料5）

⑤イベント表示ツール

- ・何をやっているか一目でわかるよう「連珠（五目並べ）大会」などを大きく書いた紙（入口・テントの上他見やすい場所に貼る）を用意する。
- ・呼び込み用に何をやっているかを書いたA4かA3のPR資料を用意する。

（３）スタッフの役割を決める

当日のスタッフ役割を決めます。また当日の集合時間を決めておきます。

集合時間は準備に内容によりますが、開始１時間前が目安となります。

→事前に準備開始可能時間を主催者に確認しておきましょう。

① 責任者（１名：原則企画責任者）

- ・大会全体の運営
- ・表彰状、賞品の授与
- ・スタッフの休憩時間管理と休憩時の役割交代

②受付（１名～２名）

- ・参加者の受付を行い、対局カードを渡し、名前を書いてもらう。
- ・大会の参加方法を説明する。
 - ・５人と黒番・白番１局ずつ打つ
 - ・勝敗が決まったら対局者２人で受付に来て結果を記録する
- ・勝敗を記録後、次の対局相手を決める。

③運営補助（１名～２名）

- ・対局中分からないことが起きたときのサポート、参加者が少ないときなどで臨時の大会参加者となる。
- ・参加者が少ない時は呼び込みを行う。

④おおよそのレイアウトを決める

限られたスペースを有効活用し、運営しやすいレイアウトを決めておく。

- ・事前に会場を確認（図などでも可）する。
- ・借用できる器具（机、椅子、ホワイトボードその他）を確認する。
- ・図面上で必要な器具を置いてみる。
 - ・受付
 - ・対局場所
 - ・賞品、配布物の置き場
 - ・バックヤード

→バックヤードはスタッフの荷物や景品などを置く場所で一般の人がアクセスしにくい所に作ります（机を置いて中に入りにくくするとか）

(4) P R資料を作成し配る

新しい企画となるので、可能な限りP Rしましょう。P Rの仕方によっては、参加者層を変えることもできます。

- ・パンフレット、ポスターを作成し、掲示・配布する。
- ・イベント企画者パンフレットを作成する場合は、一行でも良いのでP R文を作成する。
(例:子どもから大人まで楽しめる連珠(五目並べ)大会。参加費無料、賞品有り)
- ・公民館などではパンフレット設置やポスター掲示ができる所が多いので申し込みをする。
- ・SNSを活用する。

町内会限定など参加者が限定されているイベント以外は、SNSに案内を載せるのも有効。
→念のため、主催者に確認しておきましょう。

(5) 景品を準備する

景品は無くても大会は可能ですが、ちょっとした物でも有ると参加者に喜んでもらえます。

①表彰状

表彰状は減多にもらうことができません。特に小学生だと非常に喜んでもらえます。

表彰状用紙は100円ショップでも販売されています。

②連珠関係の書籍

公益社団法人日本連珠者のHP「広報・普及資料」に小冊子や書籍のPDFが公開されています。これらを印刷して景品にするのも良いでしょう。

URL : <https://www.renjusha.net/renju/renjuMain.html>

③文具・おもちゃ

100円ショップやイベントグッズ販売店、インターネットなどで購入できます。

- ・キャラクター文具(鉛筆、消しゴム、付箋、ノートなど)
- ・キャラクター商品(ハンドタオル、うちわ、ティッシュなど)

④お菓子

お菓子は飲食禁止の場所での開催や他のお店と競合しないよう留意が必要です。

- ・駄菓子(うまい棒、飴)
- ・キャラクターお菓子



3. 実施する

ここでは準備を含めた当日の進め方を解説します。

(1) 会場設営する

- ・ 集合後当日の段取りについて打合せを行う。
- ・ 備品を配置する。
- ・ 連珠盤、受付、景品を所定の位置に配置する。

(2) 大会を運営する

①責任者（1名：原則企画責任者）

- ・ 大会全体の運営
 - ・ 開始宣言、終了宣言、運営中の状況を把握しスタッフに必要な指示を出す。
 - ・ ルールに記載されていないケースが発生した場合裁定する。(再試合、引分け、組み合わせを変えるなど)
 - ・ 会場を汚さないよう禁止場所での飲食を注意する。
 - ・ 参加者が少ない時は本人またはスタッフを使って呼び込みを行う。
- ・ 表彰状、賞品の授与
- ・ スタッフの休憩時間管理と休憩時の役割交代
 - ・ 特に暑い日などはこまめに休憩を入れる必要が有る。本人も休憩を忘れないように。
 - ・ 昼食が必要となるイベントの場合、順番に食べられるよう指示を出す。(言われないと食べに行きにくい)

②受付（1名～2名）

- ・ 参加者の受付を行い、対局カードを渡し名前を書いてもらう。
- ・ 大会の参加方法を説明する。
 - ・ 5人と2局ずつ打つ
 - ・ 勝敗が決まったら対局者2人で受付に来てもらい結果を記録する
 - ・ 次の相手は受付が決める。
- ・ 勝敗を記録し、次の対局相手を決める。
 - ・ 次の相手はなるべく、当たっていない人同士で対局を組む。
 - ・ 強さが分かる場合（級などがある場合）は同じ位の人と対局を組む
 - ・ 全敗者が出ないように組み合わせる。(スタッフと対局を組むなど)

③運営補助（1名～2名）

- ・ 対局中分からないことが起きたときのサポート
 - ・ ルールについては、参加者に配布しているルールに従ってサポートする。

- ・ルールに記載されていないケースは責任者に相談する。
- ・参加者が少ないときなどは臨時で（助っ人として）大会に参加する。
 - ・全敗者と対局するときは留意する。
- ・参加者が少ない時は、開催内容を書いた資料を持って呼び込みを行う。

（３）片付けを行う。

- ・予め決められた時間までに片付けを行う。
- ・公民館などは現状回復後のチェックリストを渡されることがあるので、チェックして返す。

第２章 様々なケースの対応事例紹介

１．連珠大会の運営方法

連珠大会は様々なやり方が有ります。以下のようなやり方も有ります。

（１）制限時間内早打ち選手権（例）

この方式は予め開催時間を決め、制限時間内に勝ち点を多く取った人が上位となる運営ルールです。（比較的短い時間「例１時間」で開催することができます）

- ・１番勝負。先手後手は「じゃんけん」「にぎり」などで決める。
- ・終わった人が２人で受付に来てもらい、勝ち負けを記録する。
- ・組み合わせは対局終了者が２組そろった所で「勝ち同士」「負け同士」で組み合わせる。
- ・制限時間前５分が最終組み合わせ
- ・勝ち：３点、負け：１点、引分け：２点で勝ち点を計算する。

（２）級位者公式戦方式（例）

この方式は予め開始時間を決めその時間内に決めた対局数を打ち勝ち点が多い人が上位となるルールです。（１試合ずつ時間を決めその時間で決まらなければ引分け）

- ・参加者全員が一斉に対局する。
- ・全員の対局が終わったら結果を記録し、次の対局相手を決める。（勝った者同士、負けた者同士対局する。３局目以降は対局していない人で勝ち点の近い者同士が対局する）
- ・決めた対局数まで全員が打ち終わったら大会終了。勝ち点を計算し順位を決める。
- ・勝ち点は「勝ち：１０点」「引分け：５点」「負け：０点」とし同点の場合は、試合数の多い人が上位とする。
- ・途中参加・途中退出を認める。
- ・参加者が奇数の場合、スタッフが入る。

2. 連珠大会以外の連珠イベントの例

ここでは連珠大会以外の連珠イベントの例をご紹介します。

(1) 連珠体験コーナー

大会終了後など時間があるときなどにも開催可能です。

- ・ スタッフを相手に対局する
- ・ ルールが分かった人は参加者同士の対局も可。

(2) 詰連珠挑戦コーナー

ホワイトボードなどがあるときに有効なコーナーです。

これは、見える場所に設置できると人を呼び込む効果が有ります。

- ・ 大盤か印刷した詰連珠をホワイトボードに掲示し、参加者に解いてもらう。
- ・ 正解者に景品を渡す。
- ・ 適宜ヒントを出す。
- ・ 問題は公益社団法人日本連珠社HPで探す。

<https://www.renjusha.net/challenge/chllngMain.html>

- ・ 以下の URL でやさしめの詰連珠書籍の紹介があります。

<https://www.renjusha.net/books/booksMain.html>



(3) にゃんこならべコーナー

「にゃんこならべ」は五目並べを「にゃんこ石」と

「にゃんこボード」を使って遊ぶものです。

小さいお子さんに人気で連珠体験コーナーに置いておくと
親子で楽しんでもらえます。



3. イベント・会場の探し方

ここではイベントや会場の探し方のヒントをご紹介します。

- (1) 自治体広報誌、公民館のポスター、自治会ニュースなどから探す。

- ①参加募集であれば、内容を確認し主催者に連絡を取り申し込み可能かどうかを確認する。
- ②開催案内であれば、実際に行ってみて、連珠大会ができるイベントであれば主催者に面会し、募集条件、次回募集時期を確認する。

- (2) 公民館、児童館、図書館などを見に行く。

日頃から公共の場に行き、どんなイベント・活動が行われているか確認します。借用できる会議室の広さ・器具や利用料金などを確認します。囲碁・将棋などのオープン教室が開催されている所は連珠大会開催の可能性があります。

出かけている時にイベントを見かけたら内容を確認し、連珠大会が開催できそうなイベントなら主催者に面会し、申し込可能かどうかを確認する。

4. 連珠関連のグッズ入手方法

連珠（にゃんこならべ：五目並べ）関連のグッズは以下のサイトで購入可能です。

（１）合同会社ふくふく

「合同会社ふくふく」は公益社団法人日本連珠社の法人会員で、連珠盤、碁石、書籍、にゃんこならべなどの連珠関連グッズを販売しています。



<https://db.nyankonarabe.com/news/ecsitopen/>

5. インターネット対局の勧め

インターネットで連珠を対局することができます。

連珠大会前の練習になります。

いくつかソフトがありますが、ここでは五目クエストというソフトをご紹介します。

五目クエストは、ソフト利用者が一万人程度いる連珠対局ソフトです。初心者から現役の高段者など幅広い人が対局しています。

<http://wars.fm/renju?lang=ja>



添付資料

1. 連珠ルール（参加者用）
2. 連珠のルールと打ち方
3. 表彰状サンプル
4. 印刷用連珠盤データ
5. 対局カード（サンプル）

問合せ先：普及推進委員会 fukyuu_iinkai@renjusha.net